

創刊号
'68.9.11

スバルタクス

共産主義労働者党 大阪市大細胞機関紙

手玉ラ合ハキアにあける

現在の生態

世界革命の旗の下、全世界の人民一同アリヤトの日本
に参入せよ！

創刊にあたって

七〇年安保斗争はベトナム以後、八世帯の最
高峰に位置づけられるばかり、階級斗争の新しい高
きりか、したがいに安堵沖縄斗争と大合流する全構
造的ものがとうとう食入可展望をはらんでいる。

この「歴史時代」への突入は、二川吉次の時代と比較にまづはいほどの速く、たゞ廣々りとさつて、これに立ち向かへんとする一切の「革命主体の意識を奮起せばく両立つめる事あらう。

主導権を握り、再編する一つの主要な時期でもあった。スターリン批判、ハーフリア動乱、第一回の過激派による、只産主義運動を痛苦ほどまでに引き裂いた。同時に日本共産党（大日本）の官僚主義は、自らの無能と自己日の下にさらげ半死半生となり、六〇年から争ひ巨大な波にのれ、えらいほどのであつた。

はるや木派であるいは・社会主義への不屈性の
中で・自らの主体的責務を認むしはいで一切を忍
耐り更張^{アキラカシ}にて片づけるとする。反スターリン派、
そして、統一を守りながら、新しい革命組織を表
向する舊改良派等に分解される傾向にて明まく、
仁。そして反保守斗争の爲して最も大きなる功業と目
識居ゆひめく。これほど多くの諸潮流に分解して

(我が中央大綱には、以前、日本支那實業へ日本の二之
に屬してゐた。我々は、其運営より不當に排斥さ
れて居たが、その結果をもとに現在の運動の統一と
革新の進歩を図るべく、史的任務を自覺していくに
おれじゆなり。對外英米主導者の結果の重業をへ目

（原稿）
（左）甲辰は、チエコホの冊
時無条件一概拒止せよ。
モエードの社会主義的
民主主義のための斗争
を断固支持する。
（右）米独帝国主義の一
切の干渉を粉碎せよ。

命の良心を捨てに單なる、「娘ノ派因襲集団」に
おぢりない。したゞめ我々は、彼の再び革命
の良心をとりもどし、我々の隊列に復歸することを
由びつゝ「ヨミガエラウツ」。

友マ・サ・主事方助有喜大坂市太輔によ、前判の
此監年の精切は眞實の上に
々の眞解を二ニに表題する

の決定を破つて、「日本のニニシ（義理）に於草」
三。 予忠直り活動事業は終つた。——
「日本のニニシ」の歴史的使命は終つたと云ふ。現在信
在しそうる「日本のニニシ」は、日本共産党といつ名
体をとりはずし、單なる「日本のニニシ」と称してい
るのを見ればめなるより、もはや、日本革命と、
その最も重要な事務は、日本共産党といつ名
が入手し得る情報と資料は、さわめて制限されつゝあり
それが自身だけの文書に満ちたものである。にもかく

1

その為の不動の要望と大要的創意の發揮である。との辯
は、經濟的・社会的・政治的生活へ人民の直接民主主
義、即ちの民たる人民、生産者及び労働者が管理の強化、
拡大に基づき多くを直接的討論への能動的参加の保障で
ある。

この東西で著せられて判斷導入方式の移情的制度によ
る管理者は、スターイー主義的階級的上部构造を除去
しないばかりか、それを廃止し、一種の社会主义的大衆
社会化状況をつくり出すことによって、ソ連をはじめとする
一連の社会主义国の中にその生きて奮闘する力がある。
ソ連などの労働者への重視人は、新たに生産を開始す
る一連の社会主义国の中にその生きて奮闘する力があ
る。

蘇聯の新たに高揚期への大いに可能性を示すのである。

ある。スマス、五日革命では、ロシア革命以降、挫折と復
興を繰り返した老練な革命家今日世界的意義を持つ
その獨創性を復活しつつあることを示していく。
ソ連などの労働者への重視人は、新たに生産を開始す
る一連の社会主义国の中にその生きて奮闘する力があ
る。

日本革命運動に許されたに付書と混乱を導く事のなか
に、勞働者管理に対する民主主义的管理討論への大
胆な行動を必要とする。

（オミ）

（オミ）